



学校だより

2月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

郷土・母校への愛着

副校長 加藤 純

新年が明け、1か月が経ちました。年明け早々に緊急事態宣言が再発令され、令和3年も新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策を講じながらの生活を強いられることになりそうです。早く終息の見込みが立ち、子どもたちの豊かな教育活動が戻ってくることを期待したいです。

さて、残り日数『426日』と聞いて、何だかわかりますでしょうか。実はこれは緑園東小学校としての残り日数です。緑園東小学校は残り『426日』でその役割を終え、小中一貫の緑園義務教育学校として再出発することになります。令和元年度に創立30周年記念式典を催しましたが、令和4年3月に閉校式を迎えることになるわけです。こう考えると残り日数がとても短く感じます。

カウントダウンが始まった今だからこそ、子どもたちが「緑園東小学校」にふるさと意識をもてるきっかけになればと思い、少し調べてみました。

まず、学区の「緑園」「名瀬」という地名について「横浜の町名」という本で調べてみたところ、「緑園」=昭和61年(1986年)土地区画整理事業の施行に伴い、岡津町、新橋町、名瀬町の各一部から新設された町で、町名は相鉄いずみ野線「緑園都市」駅があり、駅名が地元に着していることと、地元の要望により「緑園」と名付けた。

「名瀬」=昭和14年(1939年)横浜市編入の際、鎌倉郡中川村大字名瀬村から新設した町。古くは鎌倉郡名瀬村といい、明治22年、岡津村、阿久和村、上矢部村、秋葉村と合併して中川村ができ、名瀬は中川村大字名瀬となった。

と載っていましたが、元々「中川村」という同じ村だったことが分かります。また、本校の学区は相模国と武蔵国の国境にあたり、子易川・名瀬川によって形成された谷戸が多かった地域でした。昭和42年発行の地図には「須郷谷」「子易谷」などの地名が残っています。

次に学区に残る寺社について調べてみたところ、緑園の「山王神社」は周りの景観は大きく変化したものの神社の位置はそのままです。また、名瀬の「西蓮寺」は、戸塚区郷土史によると、寺伝では正暦元年(990年)創建とありました。さらに戦時中には、保土ヶ谷区峯小学校が疎開してきていたという資料も見つけました。他にも猿田彦神社下には古い庚申塔が今でも残っています。

昭和51年(1976年)に相鉄いずみ野線が開通し緑園都市駅が開業した後、大規模なまちづくりが行われました。しかし、緑の景観を生かした開発だったため、今でも緑豊かなまち「緑園」として親しまれています。古い歴史をもち、自然が多く残る豊かな地域である「緑園」「名瀬」のまち。

「緑園」「名瀬」に関連する他のキーワードで調べてみるとまだまだ色々な事実が分かるかもしれません。子どもたちが『ふるさと』意識を高めるためには学校をはじめ、保護者・地域の方々とともに協力し合っていくことが不可欠です。緑園東小学校の集大成に向けての取組が、良い機会といえます。十分な計画を立て、準備していきたいと思えます。

「緑園」「名瀬」のまちに愛着をもち、「緑園東小学校」出身ということに誇りのもてる地域・学校をこれからもめざしていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。



昭和52年の緑園の様子
(休業期間中、学校にご寄付いただいた写真)